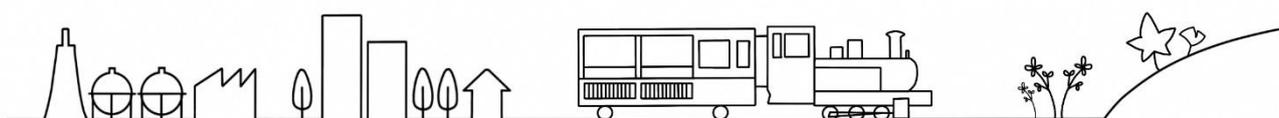


房総里山芸術祭

ICHIHARA ART×MIX 2020+

開催概要



It's a fine day! Why don't you visit Ichihara?

晴れたら 市原、行こう

「いちはらアート×ミックス」は「晴れたら市原、行こう。」をコンセプトに、2014年に第1回が始まり、以降トリエンナーレ形式で開催され、2020年3月に「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020」として第3回目の開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため開催を延期し、この度「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+」として開催を迎えます。

この延期した約1年半の中で大きく社会情勢は変化し、人と人との距離や食のあり方、イベントの鑑賞方法も変わってきました。作品の鑑賞には万全な対策を講じ、来場者・地域住民双方にとって「安心安全で楽しい芸術祭」を目指します。

会場となる市原市は、千葉県の中央に位置する人口約27万人の都市です。市の北部には日本有数の石油コンビナート群が立地する一方、南部には養老川の恵みがもたらす田園風景や先人たちが古来より守り育んできた美しい里山が広がり、春には満開の菜の花の中をトロッコ列車がのどかに走ります。都心や成田・羽田の両国際空港に近い立地ながら、人々の安らぎと共感を呼ぶ日本の原風景があります。

- ・ 地域が持つ魅力的な資源をいかして作品をつくること
- ・ 作品制作や作品の維持管理を通してアーティストと地域と繋がり、地域への愛着と誇りを醸成すること
- ・ 作品を道しるべに、来場者は地域を巡り、地域の価値・魅力を理解すること

コロナ禍を経験した世界の、「新たな芸術祭」のあり方を、「房総の里山から世界を覗く」というテーマを持って、作り上げます。



開催概要

■ 名称

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+

(読み：ぼうそうさとやまげいじゅつさい いちはらあーとみっくすにせんにじゅうぷらす)

「アート×ミックス」とは

音楽・芝居・ダンス・スポーツ・食などの生活文化、身体活動、コミュニケーションを、アートに触媒としてつなぎ、地域とアーティストの協働により地域の特色を再確認し発信する、という意味を込め、名付けられた。

「+ (プラス)」に込めた思い

房総里山芸術祭いちはらアート×ミックス 2020 は当初 2020 年 3 月～5 月の開催を予定していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により、会期を 1 年延期した。

これに伴い、これまでに培った資産を礎に未来へ引き継ぐとともに、度重なる災害からの復興とコロナ禍により変わりゆく社会に立ち向かう「挑戦」をテーマに加えるという「+」、これにより芸術祭に付加価値を与える「+」という意味を込め、「+」とつけた。

■ 会期

2021 年 11 月 19 日(金)～12 月 26 日(日)

※月・火曜日：休場 (11 月 23 日(火祝)を除く)

■ 主催

いちはらアート×ミックス実行委員会

■ ディレクター等

総合ディレクター	北川フラム
アートディレクター	豊福亮 (アーティスト)
デザインディレクター	色部義昭 (グラフィックデザイナー)
広報アドバイザー	佐野弘明 (市原市広報戦略アドバイザー)

■ 参加アーティスト

約 70 組 (17 の国と地域)

■ 作品数

約 90 点

■ 開催エリア

千葉県市原市 小湊鉄道を軸とした周辺エリア

(五井、牛久、高滝、平三、里見、月崎・田淵、月出、白鳥、養老溪谷)



● . . . 新規エリア

● . . . 拡充エリア

● . . . 従来のエリア



作品介绍

(1) 五井エリア



小湊鉄道五井機関区、五井駅ホーム

五井エリアは A×M2020+の旅の出発点。
 A×M2020+の総合案内所となる五井駅東口前のインフォメーションセンターで情報を入手し、小湊鉄道五井機関区、五井駅ホームに展開される作品を鑑賞したら、小湊鉄道へ乗り込み冒険へ出発。

▶ 作品

<p>Photo by MOCA Taipei</p>		
<p>チョアン・チーウェイ 《鉄道上の集団記憶》</p>	<p>アレクサンドル・ポノマリョフ 《永久機関》</p>	<p>アレクサンドル・ポノマリョフ 《Questions of Evolution-進化の問題-》</p>
<p>ザンナ・カダイロバ 《Ichihara-Pushcha-Vodytsia》</p>	<p>ターニャ・バダニナ 《門》</p>	<p>アデル・アブデスメッド 《Play It Again》</p>

(2) 牛久エリア



牛久商店街

上総牛久駅から広がる牛久商店街に、かつて使われていた古い商店跡や、現在も営業中の昔ながらのデパートに作品を展開。

牛久エリアは南いちはらの玄関口。作品を鑑賞したら、トロッコ列車に乗り換えるもよし。週末は「出張牛久商店街」のメンバーが商店街を丸ごとお盆に詰め込んでトロッコ列車に乗り込む。

▶ 作品

<p>マー・リャン (馬良) 《移動写真館》</p>	<p>豊福亮 《牛久名画座》</p>	<p>柳健太郎 《KINETIC PLAY》</p>
<p>Photo by ECHIGOYA Izuru</p>	<p>ICHIHARA ART x MIX 2020+</p>	<p>ICHIHARA ART x MIX 2020+</p>
<p>中崎透 《Clothing Fills in the Sky》</p>		

(3) 高滝エリア



市原湖畔美術館、山口の里

過去の芸術祭でもおなじみの市原湖畔美術館で企画展を開催。初めての会場となる山口の里は、県の指定文化財でもある木造地蔵菩薩坐像が安置される集落。今は忘れられた音信山の歴史を紐解く作品を展開。

<p>戸谷成雄 森 ———— 湖 再生と記憶 Shigeo Toya Forest - Lake: Regeneration and Memory 2021年10月16日(土) - 2022年1月16日(日)</p>	<p>Photo by ENDO Tadashi</p>	<p>Photo by ENDO Tadashi</p>
<p>企画展「戸谷成雄 森一湖：再生と記憶」</p>	<p>KOSUGE1-16 《Heigh-Ho》</p>	<p>KOSUGE1-16 《Toy Soldier》</p>
<p>Photo by ENDO Tadashi</p>	<p>Photo by ENDO Tadashi</p>	<p>Photo by ENDO Tadashi</p>
<p>クワクポリョウタ 《Lost Windows》</p>	<p>アコンチ・スタジオ 《MUSEUM - STAIRS / ROOF OF NEEDLES & PINS》</p>	<p>木村崇人 《星ぶどう》</p>
<p>鈴木ヒラク 《Warp》</p>	<p>ウラジミール・ナセトキン 《星座「高滝湖座」》</p>	<p>ウラジミール・ナセトキン 《空を見よ、自分を見よ》</p>



ニブロール
《汚れた手》



ターニャ・バダニナ
《翼》



深澤孝史
《音信山再訪》

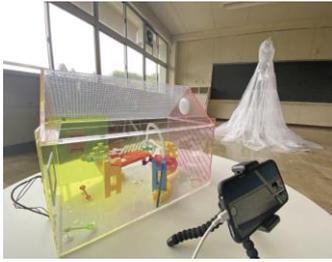
(4) 平三エリア



旧平三小学校

A×M2020+で初めて会場となった旧平三小学校。2016年に閉校し、地域住民により維持管理されてきた。学校の地下にはトンネルが掘られ平蔵川の川廻しによる水路が残るなど、まるで秘密基地のよう。

<p>開発好明 《市原 100 人教頭学校キョンキョン》</p>	<p>栗真由美 《ビルズクラウド》</p>	<p>ミカーラ・ダウアー 《願いの井戸》</p>
		<p>Photo by SOGA Eiko</p>
<p>キム・テボン 《ドリームキャッチャー》</p>	<p>秋廣誠 《時間鉄道》</p>	<p>曾我英子 《ご近所さんの食事》</p>
<p>Photo by KATO Ken</p>		
<p>富安由真 《Jacob ' s Ladder (Dream For Ascension)/ ヤコブの梯子 (終わらない夢)》</p>	<p>マリア・ネポムセノ 《知るは海》</p>	<p>長谷川仁 《混色》</p>



大野修平
《Bugs dress / Pollinator》



ラヴァル・モンロー
《サンクチュアリ》



富安由真
《The TOWER (Descension To The Emerald City)/ 塔 (エメラルド・シティに落ちる)》

(5) 里見エリア



旧里見小学校

芸術祭の拠点となってきた旧里見小学校。今回は、地元団体による食堂の開設や、地域のお菓子をテーマにした作品など「食」の拠点に。

<p>開発好明 《モグラハウス》</p>	<p>EAT&ART TARO 《おかしのはなし》</p>	

(6) 月崎・田淵エリア



月崎駅、月崎の里、いちはらくオードの森、田淵の里

山あい位置し、広大な森林が広がる地域。月崎エリアでは第1回芸術祭からおなじみの月崎駅、いちはらくオードの森に加え、新たに月崎の里が会場に。

そしてチバニアンを中心とした周辺エリア、田淵の里を新たに会場とする。

	<p>Photo by ISHIZUKA Gentaro</p>	
<p>エルモ・フェアメイズ 《Mirror of Soil》</p>	<p>石塚元太良 《M 邸》</p>	<p>アイシャ・エルクメン 《Inventory》</p>
		<p>Photo by MURAKAMI Keichi</p>
<p>磯辺行久 《6000年前、養老川の本流がここを流れていた》</p>	<p>磯辺行久 《養老川を翔ぶ》</p>	<p>栗田宏武 《田舎暮らし 陽だまりの庭にて》</p>
	<p>ICHIHARA ART x MIX 2020+</p>	<p>ICHIHARA ART x MIX 2020+</p>
<p>小沢敦志 《地熱の扉》</p>		

(7) 月出エリア



月出工舎（旧月出小学校）、月出の森

2007年に閉校し、第1回の芸術祭を契機に市の芸術発信拠点「月出工舎」として生まれ変わった旧月出小学校。現在も複数のアーティストが住み込み制作活動をしている。

また、月出工舎近くの2軒の空き家を使った「月出の森構想」がスタート。

<p>岡田杏里 《月が生まれたとき》</p>	<p>鈴木敦夫 《つながる波紋》</p>	<p>風煉ダンス 《大きな周一》</p>
<p>チョウハシトオル 《火処》</p>	<p>ヘラルド・バルガス 《Gente Del Mar-海からの人々-》</p>	<p>塩月洋生 《間》</p>
<p>鍛冶瑞子 《重なりゆく記憶-月出工舎体育館 リノベーション-》</p>	<p>岡博美 《その内に持つ色》</p>	<p>竹村京 《東京の記憶の家（2019-2020）》</p>

		
<p>舞踏団 トンデ空静 《半島行脚と水鏡の踊り》</p>	<p>田中奈緒子 《彼方の家》</p>	<p>トーマス・レーメン 《どんなふうにも、一緒に生きていき たい?》</p>
		
<p>来田広大 《風待ちの家》</p>	<p>岩間賢 《ほとり》</p>	

(8) 白鳥エリア



旧白鳥保育所、旧白鳥小学校、白鳥公民館

学校や公民館などの文化施設が立ち並ぶ白鳥エリア。旧白鳥保育所では、女性アーティストたちが作品を展開。公民館ではパフォーマンス作品を展開。

<p>Photo by MURAKAMI Keiichi</p>		
<p>カルロス・ガライコア 《ウェイクアップ / シティ / スリープ》</p>	<p>高田安規子・政子 《Trial and Error》</p>	<p>大杉祥子 《白鳥の湖》</p>
<p>参考作品 Photo by OHYA Mariko</p>		
<p>五所純子 《FOOD COURT》</p>	<p>篠崎恵美 《bedroom -where it begins-》</p>	<p>高山夏希 《conjunction-名詞から接続詞へ-》</p>
<p>Photo by ISHIDA Masumi</p>		
<p>石田真澄 《yellow》</p>	<p>前田エマ 《エマらじお in いちはら》</p>	<p>時速 30 km の銀河の旅 (前田麻里、坂口理子、美木マサオ) 《終着駅》</p>

 <p>Photo by Kitagawa sisters</p>		
<p>伊藤キム 《白鳥伊藤キム一館》</p>		

おもてなし交流プログラム

芸術祭の来場者へのおもてなしとして、地域住民や団体がおもてなし。誰でも気軽に参加できるワークショップや体験プログラムのほか、地元で人気の飲食店やキッチンカーが集まったお食事コーナーも。旧白鳥小学校のほか、内田未来楽校、市内各所で開催。



(9) 養老溪谷エリア



旧朝生原小学校跡地、アートハウスあそうばらの谷

春は新緑、秋は紅葉が美しく、観光地としても有名なエリア。旧朝生原小学校跡地では、2019年の台風被害にあったイチョウの大木を使った作品、アートハウスあそうばらの谷では周辺地区を3D空間により再現した作品など、土地の記憶を残すような作品を展開。



竹腰耕平
《市原の木》

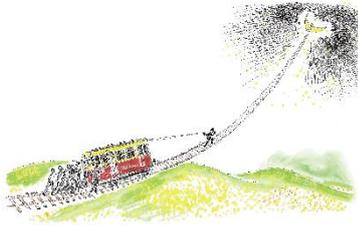


マルニクス・デネイス
《PIVOT POINT - ICHIHARA》



ターニャ・バダニナ
《空への階段》

(10) 駅舎プロジェクト



レオニート・チシコフ《冒険へ》

駅舎群等が国登録有形文化財である小湊鐵道から着想を得た作品などを制作し、小湊鐵道の五井駅から養老溪谷駅までの17駅全てに作品を設置する「駅舎プロジェクト」を展開。駅名や、駅のある地名、歴史にちなんだ作品を展開することで、日本特有の鉄道文化の発信や、地域住民の土地や守り伝えてきた文化への愛着と誇りの創生を図る。

<p>五井駅 レオニート・チシコフ 《第一の駅 《水もなく月もなく あるいは桶の中の7つの月》》</p>	<p>上総村上駅 レオニート・チシコフ 《第二の駅 《村上氏の最後の飛行 あるいは月行きの列車を待ちながら》》</p>	<p>海土有木駅 レオニート・チシコフ 《第三の駅 《宇宙の立方体 あるいは道に迷った乗客のための灯台》》</p>
<p>上総三又駅 レオニート・チシコフ 《第四の駅 《三又宇宙基地》》</p>	<p>上総山田駅 レオニート・チシコフ 《第五の駅 《芭蕉の月 あるいは「木を切りて本口見るや 今日月》》》</p>	<p>光風台駅 レオニート・チシコフ 《第六の駅 《流れ星 あるいは願いを占う駅》》</p>
<p>馬立駅 レオニート・チシコフ 《第七の駅 《僕の月の旅》》</p>	<p>上総牛久駅 藤本杜介 《里山トイレ》</p>	<p>上総川間駅 ジョアン・カポータ 《Nostalgias》</p>

		
<p>上総鶴舞駅 成田久 《試着駅。(上総鶴舞駅 千葉県市原市池和田 898-2)》</p>	<p>上総鶴舞駅 藤本壮介 《Tree / Toilet》</p>	<p>上総久保駅 西野達 《上総久保駅ホテル》</p>
		 <p>Photo by NAGUCHI Hiroshi</p>
<p>高滝駅 ターニャ・バダニナ 《翼》</p>	<p>里見駅 ソカリ・ドグラス・カンブ 《Manmade》</p>	<p>飯給駅 藤本壮介 《Toilet in Nature》</p>
 <p>Photo by MURAKAMI Keichi</p>	 <p>Photo by CLIP</p>	 <p>Photo by CHUANG Chih-Wei</p>
<p>月崎駅 木村崇人 《森ラジオ ステーション×森遊会》</p>	<p>上総大久保駅 CLIP 《森の入口》</p>	<p>養老溪谷駅 チョアン・チーウェイ (莊志維) 《鉄道上の集団記憶》</p>
 <p>“Many nights Giorgio & myself” “My rooms are always on the way” Tiberius 2015 Sulham, single play 189 letters</p>	<p>ICHIHARA ART x MIX 2020+</p>	<p>ICHIHARA ART x MIX 2020+</p>
<p>養老溪谷駅 レオニート・チシコフ 《私の月はいつも旅行中・7つの月を探す旅 最終駅 - 》</p>		

新型コロナウイルス感染症の影響を受け中止となった作品

「房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+」は、当初2020年3月20日からの開催を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため約1年半の延期を余儀なくされました。作品の中には延期の影響を受け、中止せざるを得ないものもありました。以下に御紹介します。

		
<p>遠山正道となかまたち時々100本の スプーン 《草上ポートのピクニック風景》</p>	<p>米澤文雄 《里見キッチン》</p>	<p>EAT&ART TARO 《おにぎりのための運動会!》</p>
		
<p>指輪ホテル 《コミナト サブマリン クロニクル》</p>		

会場関係



(1) 交通・案内

■ 周遊バス

小湊鉄道主要駅と会場エリアをつなぐ無料周遊バスを運行します。時刻表・ルート等詳細は公式ガイドブック・ウェブサイトをご参照ください。



■ 駐車場

各会場に無料駐車場を設置します。所在地、利用時間等詳細は公式ガイドブック・ウェブサイトをご参照ください。

■ その他二次交通

タクシーやレンタカー、レンタサイクル、超小型EVのご利用もお勧めしています。詳細は公式ガイドブック・ウェブサイトをご参照ください。

■ インフォメーションセンター

芸術祭の入り口となる五井駅東口、市南部エリアの入り口となる上総牛久駅、芸術祭の中心となる市原湖畔美術館に総合案内所（インフォメーションセンター）を設置します。パスポート・各種販売物の販売、芸術祭の情報・交通情報を提供しています。



(2) 新型コロナウイルス感染症対策

房総里山芸術祭 いちはらアート×ミックス 2020+ は、地域の皆様、来場者の皆様、運営スタッフなど、いちはらアート×ミックスに関わるすべての方の安全を守るため、下記を中心とした感染症対策を徹底します。

- ・ 3密（密集・密閉・密接）の防止やマスク着用、屋内会場の換気など、基本的な感染症対策の徹底
- ・ すべての関係者、来場者の検温及び健康状態の確認
- ・ 来場者、運営スタッフへ感染症対策に係る事項の事前周知
- ・ 来場者の会場内の行動履歴の把握
- ・ 状況に応じた感染症対策の徹底
- ・ 会場各施設の特徴に応じた個別具体的な「会場運営・新型コロナウイルス感染症対策マニュアル」の作成・運用



皆様に安心していちはらアート×ミックス 2020+をお楽しみいただくため、ご来場の皆様に以下のご協力をお願いいたします。

- ・ 発熱や風邪の症状があるなど、体調に不安をお持ちの方は来場をご遠慮ください。
- ・ 来場される際は、マスクの着用をお願いします。
- ・ 最初に訪れた会場で、検温の実施と健康チェックシートへの記入をお願いします。
※体温が 37.5 度以上ある方や、健康チェックシートの記入内容によっては、入場をお断りさせていただきます。
- ・ 健康状態の確認済の目印として、リストバンドをお渡ししますので、会場を訪れる際、見えるところに着用してください。
- ・ 3密（密集・密閉・密接）の防止や、身体的距離の確保をお願いします。
- ・ 手指の消毒や混雑時の入場制限など、各会場のスタッフの指示に従ってください。
- ・ 厚生労働省新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）への登録をお願いします。
- ・ その他詳細は公式ウェブサイトにてお知らせします。ご来場の際はあらかじめ公式ウェブサイト内「新型コロナウイルス感染症対策」ページをご覧ください。





チケット・パスポート

会期中、本芸術祭の一部のイベントを除く全ての作品を鑑賞できるパスポートです。会期中であれば、異なる日であっても使え大変お得です。

- ※ 作品鑑賞パスポートは1作品1回限り有効。同一作品を2回以上鑑賞する際は個別鑑賞券をお買い求めください。(パスポート所有で割引があります。)
- ※ 障がい者手帳をお持ちの方は無料(介添が必要な場合、同行者1名無料)

▶ 販売料金

	当日	前売り(～11/18)
一般	3,000円	2,500円
大高生	1,500円	1,500円
小中学生	500円	500円
※ 県内の小中学生にはパスポート引換券を配布します ※ 未就学児の方は作品鑑賞パスポートの購入は不要です。		

▶ 販売場所

- ・ いちはらアート×ミックス公式ウェブサイト
- ・ いちはらアート×ミックス実行委員会事務局
- ・ 市原市役所スポーツ振興課
- ・ 各作品会場(会期中のみ)
- ・ 各インフォメーションセンター(会期中のみ)
- ・ 市原湖畔美術館
- ・ 市原市観光案内所(五井駅西口)
- ・ 養老溪谷駅前観光案内所
- ・ 各種プレイガイド(セブンイレブン、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート)
- ・ アンビュアー

▶ 鑑賞時間

10:00～16:00

※小湊鉄道五井機関区：9:00～17:00

市原湖畔美術館：(火～金) 10:00～17:00 (土・祝前日) 9:30～19:00 (日・祝日) 9:30～18:00

※月曜日休、月曜日が祝日の場合は翌火曜日休



全作品の紹介や会場マップ、交通案内など芸術祭巡りに欠かせない情報を詰め込んだ公式ガイドブックを発売中。

公式グッズはデザインディレクターの色部義昭氏（日本デザインセンター）によるデザイン。これまでの芸術祭ではおなじみのTシャツやピンバッジに加え、里山めぐりに便利なトートバッグ、サコッシュもラインナップしています。

▶ 販売場所

- ・ いちはらアート×ミックス実行委員会事務局（市原市芸術祭推進課）
- ・ 市原市役所スポーツ振興課
- ・ 市原市観光案内所（五井駅西口）
- ・ 養老溪谷駅前観光案内所
- ・ 市原湖畔美術館
- ・ 各インフォメーションセンター（会期中のみ）
- ・ Amazon（ガイドブックのみ）

ICHIHARA
ART×MIX
2020

ピンバッジ 500円

T×MIX ICHIHARA ART×MIX
ICHIHARA ART×MIX ICHIHARA

マスクングテープ 200円

ガラス 500円

Tシャツ (S/M/Lサイズ) 各2000円

トートバッグ 2000円

サコッシュ 1500円

房総里山芸術祭
いちほらアート×ミックス 2020+



令和3年度文化資源活用推進事業

いちほらアート×ミックス実行委員会 事務局

〒290-0225

千葉県市原市牛久 500 (南総支所内)

市原市役所 スポーツ国際交流部 芸術祭推進課

TEL : 0436-50-1160

E-Mail : kokugei@city.ichihara.lg.jp